

施設実習に関する意欲と現状についてII

— 学生のアンケートを中心に —

A Study on Students' Attitudes toward Practicum at Welfare Institutions

— A Report Based on a Questionnaire for Student Trainees —

(2005年3月31日受理)

土谷 由美子
Yumiko Tsuchiya

Key words : 施設, 実習, 意欲

要 約

施設実習において学生がどのような意識をもって実習を行っているのかを明らかにするために、施設実習終了後に幼児教育科1年生を対象にアンケート調査の継続調査による二年度分である。施設実習に対する事前の取り組み、施設に対する評価、担当者からの指導評価、実習生の自己評価、実習前後の施設のイメージ、実習経験を総括する評価を集計した。その結果、全体的に前年より肯定的になっていた。施設実習事前の取り組みで、養護系施設で事前学習をしたが低くなり、施設の評価では、障害者系施設で生き生きとてなかつたり、アットホームでないと前年より感じていた。担当者からの指導の評価から障害児系施設で受け入れ準備、日誌の内容や書き方の指導、指導助言が少し低くなっていた。実習生の自己評価、施設のイメージ、総括評価については、肯定的であった。

1. はじめに

本学幼児教育科では学内での講義や実技を通して、原理(論)の知識、技能を習得したものを、1年終了時に実践活動として実習を通して利用児・者と直接関わりながら、経験的知識や実践への応用力を学ぶために施設実習を行っている。

ほとんどの学生にとっての保育所実習と実習内容の異なる福祉施設への知識は、数日のボランティア経験だけであり、漠然とした思いのまま実習している状況である。まして、10日間の宿泊実習になるので精神的に不安となっている。

施設実習は実習施設と養成校と学生を含めた3者の関係のもとで成り立っている。施設種別も多様であり、対象の年齢層も幅も広く多くの学生が希望する施設で実習できない現状である。

本研究は、前回同様このような現状を踏まえ、保育士

養成課程で資格取得のための一部とし必修である施設実習に臨む学生の、事前の不安と、担当者からの実習中の指導、実習後の認識を探究し、実際には期待するほどの意欲を事前実習研究に注いでいないように見受けられるため、今後の実習研究指導を有効に活かせることを目的とする。

2. 研究方法

- 1) 調査対象は中国短期大学幼児教育科の「施設実習」履修者1年生147人である。
- 2) 調査時期は2004年3月施設実習終了後に行った。
- 3) 調査方法は施設実習反省会后無記名方式のアンケート調査でマークシートを用いた。
- 4) 調査項目は6つの枠組みから構成された計19項目から作られている。6つの枠組みの1番目の枠組みは、学生の事前に実習に対する取り組み姿勢の3項目

(No.1～No.3)である。2番目の枠組みは施設に対する評価の3項目(No.4～No.6)3番目の枠組みは実習中の担当者からの指導に関する5項目(No.7～No.11)4番目の枠組みは自己の実習成果に関する5項目(No.12～16)5番目の枠組みは実習前・実習後の施設のイメージの2項目(No.17～18)である。そして、6番目の枠組みは実習経験を総括的に評価する1項目(No.19)である。

3. 結果と考察

1) アンケート調査の結果について

ここで用いるデータの数は乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設をまとめて児童系施設(50人)、知的障害児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設をまとめて障害児系施設(35人)知的障害者更生施設、知的障害者授産施設をまとめて障害者系施設(62人)と分類した。

(表1)

表1. アンケート結果

質 問	種 別	は い		い い え			
		人数	割合	人数	割合		
1. あなたは自分の課題や目標をきちんと持って実習に望みましたか。	児童系施設	46人	92.0%	4人	8.0%		
	障害児系施設	32人	91.4%	3人	8.6%		
	障害者系施設	58人	93.5%	4人	6.5%		
2. 実習前実習に向けて自分の取り組む姿勢は積極的でしたか。	児童系施設	26人	52.0%	24人	48.0%		
	障害児系施設	20人	57.1%	15人	42.9%		
	障害者系施設	35人	56.5%	27人	43.5%		
3. 施設の利用児・者を理解するためによく事前学習しましたか。	児童系施設	7人	14.0%	43人	86.0%		
	障害児系施設	9人	25.7%	26人	74.3%		
	障害者系施設	20人	32.3%	42人	67.7%		
4. 施設の利用児・者は生き生きとしましたか。	児童系施設	48人	96.0%	2人	4.0%		
	障害児系施設	32人	91.4%	3人	8.6%		
	障害者系施設	60人	96.8%	2人	3.2%		
5. 施設はアットホームな環境でしたか。	児童系施設	50人	100.0%	0人	0.0%		
	障害児系施設	33人	94.3%	2人	5.7%		
	障害者系施設	62人	100.0%	0人	0.0%		
6. 施設の利用児・者と担当者との人間関係はうまくいったと思いますか。	児童系施設	50人	100.0%	0人	0.0%		
	障害児系施設	35人	100.0%	0人	0.0%		
	障害者系施設	61人	98.4%	1人	1.6%		
7. 施設の実習生の受け入れ準備はできていましたか。	児童系施設	50人	100.0%	0人	0.0%		
	障害児系施設	33人	94.3%	2人	5.7%		
	障害者系施設	59人	95.2%	3人	4.8%		
8. 日誌の内容や書き方をよく指導して貰えましたか。	児童系施設	38人	76.0%	12人	24.0%		
	障害児系施設	27人	77.1%	8人	22.9%		
	障害者系施設	57人	91.9%	5人	8.1%		
9. 実習中個別に指導助言がありましたか。	児童系施設	46人	92.0%	4人	8.0%		
	障害児系施設	33人	94.3%	2人	5.7%		
	障害者系施設	58人	93.5%	4人	6.5%		
10. あなたと担当の先生との人間関係はうまくいったと思いますか。	児童系施設	50人	100.0%	0人	0.0%		
	障害児系施設	34人	97.1%	1人	2.9%		
	障害者系施設	62人	100.0%	0人	0.0%		
11. 自分の実習テーマに関して指導を受けましたか。	児童系施設	26人	52.0%	24人	48.0%		
	障害児系施設	17人	48.6%	18人	51.4%		
	障害者系施設	34人	54.8%	28人	45.2%		
12. あなたは積極的にかかわることができましたか。	児童系施設	48人	96.0%	2人	4.0%		
	障害児系施設	35人	100.0%	0人	0.0%		
	障害者系施設	58人	93.5%	4人	6.5%		
13. 事務的な仕事や記録などが迅速かつ正確に処理できましたか。	児童系施設	48人	96.0%	2人	4.0%		
	障害児系施設	33人	94.3%	2人	5.7%		
	障害者系施設	60人	96.8%	2人	3.2%		
14. あなたの实習内容に対していつも肯定的評価をうけましたか。	児童系施設	39人	78.0%	11人	22.0%		
	障害児系施設	30人	85.7%	5人	14.3%		
	障害者系施設	57人	91.9%	5人	8.1%		
15. 実習施設で実習できたことをよかったと思いましたか。	児童系施設	50人	100.0%	0人	0.0%		
	障害児系施設	34人	97.1%	1人	2.9%		
	障害者系施設	62人	100.0%	0人	0.0%		
16. 実習を終えて施設に対する理解はできましたか。	児童系施設	48人	96.0%	2人	4.0%		
	障害児系施設	35人	100.0%	0人	0.0%		
	障害者系施設	59人	95.2%	3人	4.8%		
質 問	種 別	いいイメージ		どちらともいえない		悪いイメージ	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
17. 実習前の施設へのイメージはどうでしたか。	児童系施設	18人	36.0%	26人	52.0%	6人	12.0%
	障害児系施設	7人	20.0%	18人	51.4%	10人	28.6%
	障害者系施設	16人	25.8%	34人	54.8%	12人	19.4%
18. 実習を終えて施設へのイメージは変わりましたか。	児童系施設	48人	96.0%	2人	4.0%	0人	0.0%
	障害児系施設	34人	97.1%	1人	2.9%	0人	0.0%
	障害者系施設	61人	98.4%	1人	1.6%	0人	0.0%
19. 実習を終えて施設で働きたいと思うようになりましたか。	種 別	働きたい		どちらともいえない		働きたくない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
	児童系施設	23人	46.0%	24人	48.0%	3人	6.0%
	障害児系施設	18人	51.4%	16人	45.7%	1人	2.9%
	障害者系施設	35人	56.5%	23人	37.1%	4人	6.4%

① 学生の事前の実習に対する取り組み姿勢

課題や目標をきちんと持って実習に行った学生は全体的に91%と高く、特に障害者系施設では93.5%と高かった。(No.1) 実習前の実習へ向けて取り組む姿勢はすべて施設において50%以上が積極的に取り組んだと答えている。(No.2) 施設の利用児・者を理解するためによく事前学習したかについては児童系施設で14.6%の学生しか事前学習をしてなかったが、障害児系24.3%、障害者系32.3%と障害を持つ施設になるほど事前学習をしていた。(No.3) 実習には課題や目標を明確にし、課題や目標はあらゆる支援実践場面から見いだせる機会であるので実習の意味につながることである。実習前の取り組む姿勢では半数程度である。施設実習に前向きに臨む姿勢を、学生一人ひとりから事前指導の中で、どのようにみ出していけばいいのかこれからの課題である。積極的に取り組めないのは施設に対する知識不足が原因となっている。施設の利用児・者を理解するための事前学習については、実習園が決まり、ビデオや資料の提供、施設長や卒業生からの現状の話、実習園のパンフレット、先輩の日誌、後輩への勉学の取り組み方を見て、自らの身に置くことができずそれを利用し事前学習をすることにつながらないのである。児童系施設では子どもの発達段階、子どもの気持ちを理解・共感の学習、障害児系施設・障害者系施設では、病気・療育の理解、意思疎通の仕方など学習してもらいたい。

② 施設に対する評価

施設内の利用児・者は生き生きとしたかでは、児童系施設・障害者系施設で96%、96.8%と高く障害児系91.8%と少し低かった。(No.4) 障害児系施設では、障害が重く寝たきりの利用児が多く意思疎通が難しい面があり生き生きとは見えなかったであろう。アットホームな環境 (No.5)、利用児・者と担当者の人間関係 (No.6) はすべて施設において100%、100%ちかくいいと感じていた。施設が利用児・者にとって課程となり、集団生活の場である。利用児・者が自分の思いのままの生活を主体的にし、明るい雰囲気になっている。お互いに気持ちよく生活できている場であり、学生も一緒に生活してみ

理解できたのだ。職員の勤務体制も交代制勤務であり、職員も互いに引き継ぎ伝達し、全員での協力体制が整っているのである。

③ 実習中の担当者からの指導

実習生の受け入れ準備について (No.7)、個別の指導助言 (No.9)、担当者との人間関係 (No.10) はすべて施設で90%ととてもうまくいっていたようである。特に担当者との人間関係は、100%うまくいっていた。だが、日誌の指導については児童系施設が24%、障害児系施設で22.9%が指導して貰えてなかった。(No.8) 自分の実習テーマに関して指導を受けた学生はすべての施設において半数程度だった。(No.11) 児童系施設・障害児系施設・障害者系施設では利用児・者への関わり方が最も多く、次に利用児・者の実態である。障害児系施設・障害者施設ではなかったが児童系施設では実習に対する基本的態度の指導もあった。実習生の日常態度が、利用児に影響を与えるからである。施設の現状課題の指導が各施設で見られたのは、職員と同じ気持ちで実習し、利用児・者個々の思いをわかって欲しいという現れである。実習日誌については、変則の交代勤務であるため、実習中担当者と毎日顔を合わせられる状態ではないため、まとめてチェックして下さるか、違う担当者になるためであろう。実習テーマについても、利用児・者を理解するための事前学習ができていなかったため、短い実習期間の中でテーマを1つに絞りきれなかったり、実習担当者に積極的に質問できなかったようである。実習生の取り組み方によって対応も違ってくるのではないかと思う。

④ 自己の学習成果

積極的にかかわれた (No.12)、事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確にできた (No.13)、実習施設で実習できたことがよかった (No.15)、施設に対する理解 (No.16) はすべての施設で90%以上になっており高い成果があった。実習内容に対して肯定的評価であった (No.14) については、障害者系施設14.3%で児童系施設が22%何かの注意を受けていた。全ての施設に置いて終了後、実習施設で実習できてよかった。施設に対する理解ができていた。実習中一番大変だったことは、児童系施設では、中高生との

関係への対応の仕方、利用児への援助技術であり、障害児系施設では、実習生がどこまでしていいかわからない様であった。医学的知識、看護的知識もなく個々の障害を理解するまでに時間がかかったのであろう。障害者系施設では、利用者への援助技術/実習生がどこまでしていいかわからないであった。利用者(障害者)との交流経験がなく戸惑うことがあり、どう接していいかわからない面があり、利用者によっては自分の身の回りのことはすべてでき、実習生に指導してくれることもあるので、援助の仕方がわからなかったようである。だが、うれしかったことでは、すべての施設で、利用児・者との関係がうまくいき、他に障害児系施設・障害者系施設では、利用児・者の気持ちや援助技術がわかったことである。

⑤ 実習前後の施設のイメージ

実習前の施設のイメージ(No.17)は、障害児系施設で悪いイメージ(28.6%)がいいイメージ(20%)より高かった。児童系施設・障害者系施設では悪いイメージが低く、いいイメージ・どちらともいえないと感じていた。実習を終えて施設のイメージで、悪いイメージを持つ学生はいなかった。施設実習は

多種多様な施設の中から一施設での実習になる。第一希望の施設で実習できればいいのだが、本学の実習承諾施設では希望通りの施設でできない状態である。障害児系施設ではある程度の専門的予備知識をもって臨まなくてはならないが、半期の事前指導の中では、充分指導するには時間が足りないのである。だが、実習に出て職員と利用児・者のかかわりを観察し、たくさんの利用児・者と関わっていくうちに理解し、自覚できたことでいいイメージになっている。

⑥ 実習経験の総括的評価

施設で働きたいか(No.19)については、働きたいが障害者系施設で56.5%障害児系51.4%と高く、働きたくないが低かった。実習施設で実習できたことをよかったと思った実習生が多かったことが、働きたいと思ったことにつながったのであろう。実習内容に対していつも肯定的評価を受けた実習生が多く職員との人間関係もうまくいったことが関係している。

2) 施設で働きたい意欲と項目との関係

施設で働きたい意欲のある学生と16項目との関係を集計した。その結果は表2のとおりである。

表2. 施設で働きたい意欲と項目との関係

質 問		児 童 系 施 設			知的障害児系施設			知的障害者系施設		
		働きたい	どちらともいえない	働きたくない	働きたい	どちらともいえない	働きたくない	働きたい	どちらともいえない	働きたくない
1. あなたは自分の課題や目標をきちんと持って実習に望みましたか。	はい	21人	20人	3人	18人	15人	1人	32人	22人	4人
	いいえ	2人	2人	0人	0人	3人	0人	3人	1人	0人
2. 実習前実習に向けて自分の取り組む姿勢は積極的でしたか。	はい	13人	11人	1人	9人	12人	1人	23人	10人	3人
	いいえ	10人	11人	2人	9人	6人	0人	12人	13人	1人
3. 施設の利用児・者を理解するためによく事前学習しましたか。	はい	3人	4人	0人	3人	6人	1人	15人	4人	1人
	いいえ	20人	18人	3人	15人	12人	0人	20人	19人	3人
4. 施設の利用児・者は生き生きとしていましたか。	はい	22人	21人	3人	17人	16人	1人	33人	23人	3人
	いいえ	1人	1人	0人	1人	2人	0人	2人	0人	1人
5. 施設はアットホームな環境でしたか。	はい	23人	22人	3人	17人	17人	1人	35人	23人	4人
	いいえ	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人
6. 施設の利用児・者と担当者の人間関係はうまくいったと思いますか。	はい	23人	22人	3人	18人	18人	1人	34人	23人	4人
	いいえ	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人
7. 施設の実習生の受け入れ準備はできていましたか。	はい	23人	22人	3人	17人	17人	1人	34人	22人	3人
	いいえ	0人	0人	0人	1人	1人	0人	1人	1人	1人
8. 日誌の内容や書き方をよく指導して貰えましたか。	はい	16人	18人	2人	12人	16人	1人	32人	22人	
	いいえ	7人	4人	1人	6人	2人	0人	3人	1人	1人
9. 実習中個別に指導助言がありましたか。	はい	21人	20人	3人	17人	17人	1人	34人	21人	3人
	いいえ	2人	2人	0人	1人	1人	0人	1人	2人	1人
10. あなたと担当の先生との人間関係はうまくいったと思いますか。	はい	23人	22人	3人	18人	17人	1人	35人	23人	4人
	いいえ	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	
11. 自分の実習テーマに関して指導を受けましたか。	はい	12人	10人	3人	6人	11人	1人	18人	13人	3人
	いいえ	11人	12人	0人	12人	7人	0人	17人	10人	1人
12. あなたは積極的にかかわることができましたか。	はい	22人	22人	2人	18人	18人	1人	35人	20人	3人
	いいえ	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	3人	1人
13. 事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確に処理できましたか。	はい	23人	20人	3人	17人	16人	1人	34人	22人	3人
	いいえ	0人	2人	0人	1人	2人	0人	1人	1人	1人
14. あなたの实習内容に対していつも肯定的評価をうけましたか。	はい		19人	17人	2人	14人	16人	1人	32人	21人
	いいえ	4人	5人	1人	4人	2人	0人	3人	2人	0人
15. 実習施設で実習できたことをよかったと思えましたか。	はい	23人	22人	3人	17人	18人	1人	35人	23人	4人
	いいえ	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人
16. 実習を終えて施設に対する理解はできましたか。	はい	22人	21人	3人	18人	18人	1人	34人	23人	3人
	いいえ	1人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人

全体に「働きたくない」と答えた実習生が少なかった。児童系施設で「働きたい」と答えた人が「働きたくない」と答えた人より「はい」が多かったのは、16項目中1項目であった。気になった項目は、「働きたい」の中で、自分の実習テーマに関して指導を受けたと受けなかったが半数程度いたことだ。知的障害児系施設で「働きたい」と答えた人の中で、施設の利用児・者を理解するためによく事前学習しま

したかで、8割以上がしなかったと答え、自分の実習テーマに関して指導を受けてないが、6割以上いた。

3) カイ二乗検定の結果について

19項目について偏りが見られるかどうかを調べるためにカイ二乗検定を行った。その結果は、次のとおりである。

質 問	χ^2	確 率
No.1. あなたは自分の課題や目標をきちんと持って実習に望みましたか。	0.174 ^a	0.613
No.2. 実習前実習に向けて自分の取り組む姿勢は積極的でしたか。	0.299 ^a	0.861
No.3. 施設の利用児・者を理解するためによく事前学習しましたか。	5.027 ^a	0.081
No.4. 施設の利用児・者は生き生きとしていましたか。	1.507 ^a	0.471
No.5. 施設はアットホームな環境でしたか。	6.488 ^a	0.039
No.6. 施設の利用児・者と担当者の人間関係はうまくいったと思いますか。	1.380 ^a	0.501
No.7. 施設の実習生の受け入れ準備はできていましたか。	2.720 ^a	0.257
No.8. 日誌の内容や書き方をよく指導して貰えましたか。	6.094 ^a	0.048
No.9. 実習中個別に指導助言がありましたか。	0.191 ^a	0.909
No.10. あなたと担当の先生との人間関係はうまくいったと思いますか。	3.222 ^a	0.200
No.11. 自分の実習テーマに関して指導を受けましたか。	0.357 ^a	0.837
No.12. あなたは積極的にかかわることができましたか。	2.380 ^a	0.304
No.13. 事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確に処理できましたか。	0.355 ^a	0.837
No.14. あなたは実習内容に対していつも肯定的評価を受けましたか。	4.390 ^a	0.111
No.15. 実習施設で実習できたことをよかったと思いましたか。	3.222 ^a	0.200
No.16. 実習を終えて施設に対する理解はできましたか。	1.677 ^a	0.432
No.17. 実習前の施設へのイメージはどうでしたか。	5.095 ^a	0.278
No.18. 実習を終えて施設へのイメージは変わりましたか。	0.599 ^a	0.741
No.19. 実習を終えて施設で働きたいと思うようになりましたか。	2.061 ^a	0.725

No.3は $\chi^2=5.027$ ($df=2$) で8.1%, No.5は $\chi^2=6.488$ ($df=2$) で3.9%, No.8は $\chi^2=6.094$ ($df=2$) で4.8%で有意であった。

4. お わ り に

本学学生のアンケートをもとに継続調査の2年度分である。

No.1からNo.3の学生の事前に実習に対する取り組み姿勢では、自分の課題や目標をきちんと持って実習に望んだ、実習前実習に向けて自分の取り組む姿勢は積極的であったは前年よりも高くなっている。事前学習について

は、障害児系施設、障害者系施設では、高くなったが、児童系施設では低くなっていた。児童系施設の実習生には、乳幼児期の発達段階、被虐待児への対応、年齢差のない中高生への対応方法を理解させたい。障害児系施設の実習生には、療育等専門的知識や介護技術を、障害者系施設では、障害や疾病に対する理解、援助技術を中心に事前学習させられるようにしなければいけない。

No.4からNo.6の施設に対する評価では、施設の利用児・

者と担当者との関係が親密であり前年より高かったが、利用児/者は生き生きとしていた、アットホームな環境では、障害児系施設が前年よりも少し低かった。入所児・者の生活の場となる施設は、環境整備が充分整っており、職員の姿や行動から生活の流れがスムーズになっているのである。施設内の人間関係は、利用児・者と職員、職員同士、利用児・者同士の関係と複雑になっている。職員同士は綿密な引継ぎをしているので、各職員が担当以外の利用児・者についても個々に把握でき、互いに協力できている。

No.7からNo.11の実習中の担当者からの指導では、担当者との人間関係がうまくいっていた、実習テーマに関する指導を受けたは前年より高かった。受け入れ準備、日誌の指導、個別の指導助言については児童系施設、障害者系施設で高くなっていたが、障害児系施設では低くなっていた。実習生自身が学ぼうとする真摯な姿勢を見せているから、担当者のほうも熱心に指導してくれている。障害児系施設では、医療との密接なかかわりがあり、治療、リハビリテーション、訓練等が中心となり、保育士だけでなく医療を基盤に様々な職種の人が多く働いており、受け入れ準備、日誌の指導、個別の指導助言があまりできていなかったのであろう。

No.12からNo.16の実習の成果では、積極的に関わることが障害者系施設で前年よりも低くなっていたが、他は高くなっていた。仕事は与えられるものではなく自らが積極的に探し、行動するものである。自分を成長させる場、発見できる場として捕らえられたようだ。現在様々な困難を抱えた子どもたちが保育園に通っている。施設利用児（養護系・障害児系共）と同様の問題を抱えた子供も多く、実習での入所児の理解と対応の体験が必要となっ

ている。また、障害者系施設では、実習生の日常生活態度、年上の利用者に対する敬語等が利用者の生活に影響を与えることがあるので基本的な生活態度が身につけてくる。利用者と接し、観察する力、関わり方が身につけば保育園でも子どもたちへの対応の仕方がうまくいくであろう。

No.17とNo.18の実習前後の施設のイメージでは、実習前はどちらともいえないが半数以上を占めていた。つまり施設というものが理解できていないということで、施設に関する知識、情報不足である。ところが、実習後は悪いイメージはなく、どちらともいえないも少数になっている。経験による理解、体験の深まりである。実習前のイメージは漠然としたものであったことがわかる。

No.19の実習経験の総括的評価では、短い実習期間であるにもかかわらず働きたいが前年より多く半数程度いたのである。働きたくないは少なくなっていた。実習を通して担当者からの指導助言が丁寧で実習生の意欲が高まったのであろう。

施設で働きたい意欲の項目では、「働きたい」と答えた実習生は前年より多く、「働きたくない」と答えた実習生が少なくなっていた。

以上、実習への取り組みについて前年と比較してみた。全体的には前年よりも高くなり、指導方法の参考になったことは言うまでもないが、もっと積極的に取り組み、興味を持てるように指導しなければいけない。事前学習についても、実習目的と実習課題を明確にし、施設の種別の理解や援助方法を福祉の授業と連携して意欲を持ち前向きに臨める内容を行う必要を探っていかなければいけない。

参 考 文 献

1. 田中チカ子・菅田栄子：施設実習に関する学生の意識（第3報）、松山東雲短期大学研究論集 第25巻 p.113-125 1994.
2. 太田敬子：文化女子大学室蘭短期大学保育科施設実習に関する現況と考察、文化女子大学室蘭短期大学研究紀要 第25号 p.30-40, 2002.
3. 土谷由美子：施設実習に関する意欲と現状について、中国学園紀要 第3号 p77-82
4. 小館静枝他：施設実習マニュアル、崩文書林 1992
5. 民秋言他：施設実習、北大路書房 2004